

東京都

Nippon Sport Science University

Spring 2019.3.1

# 保護者会報

# vol. 30

発行者 ● 日本体育大学 東京都保護者会

お問合せ先 ● [nssu.apg.tokyo@gmail.com](mailto:nssu.apg.tokyo@gmail.com)

タイトルロゴ ● 越水 春汀





日本体育大学 理事長

## 松浪 健四郎

親の心配は、子どもに対して毎日のようにある。心配することが親の仕事でもあろうか。ひるがえって、己もどれだけ両親に心配をさせ、迷惑をかけてきただろうか。

で、子どもは、日体大に進学した。スポーツ好きで、指導者や教員を目指しての入学だった。実は、私自身も入学動機が教師を志すためであった。が、4年間のうちで、教師にならなくてもいいと考える自分に気づいた。

好きなことをやる。まずアメリカ留学だ。先輩のアドバイスで、スカラーシップを受けて留学することができた。2年間、異国で学び、生活体験することによって、視野を大きく広げ、国際人へと変身することもできた。

両親は、私の行動に文句もつけず、応援してくれた。恵まれた家庭環境と両親の愛情に感謝するしかない。子どもの将来は、親の器量と関係深いばかりか、本人の意志が大きく影響する。同時に、学ぶ大学で情報をどれだけ入手し、己のものにするかもカギとなろう。

日体大は、「国際化」の旗を上げて久しい。グローバル化された社会の中で生き抜くには、学生を国際人へと変身させねばならないからである。そのためのプログラムを準備し、国際交流センターが熱心にアドバイスする。

毎年、30名前後の卒業生が、JICAの青年海外協力隊員として2年間、発展途上国で体育やスポーツの指導を行っている。帰国後は教員をはじめ、多様な職種に就いているが、立派な国際人へと転じているの

が嬉しい。

私も20代にアフガニスタンという貧国で3年間、体育とレスリングの指導を体験した。このキャリアが、私の人生を左右したばかりか、世界平和のために仕事をしたいと考えるに至った。スポーツには、平和を呼び込むツールとしての意味があり、それを専門的に学んだ経験が生かされるようになった。

そもそも、親が子どもを小さくする。親は現実的であり、社会経験が豊富であるがゆえ、近視眼的発想で子どもを指導しようとする。社会がどれだけ変わり、今後その社会が予想できないくらい変わることを意識せず、つつい子どもにアドバイスを。また、早く一人前になって欲しいという期待が拍車をかける。そもそも、子どもの才能や実力を親自身が知らず、幼児期のイメージで決めつける。

大学は、一人ひとりの学生の運命を信じがたいほど左右する場でもある。就職、結婚等も影響するだろうが、人生も決定づける。それだけに、大学の教職員の責任は重大であり、キャンパスの雰囲気、環境も重視されねばならない。日体大は、その現実を十分に理解し、学生の満足度を高めるために諸策を講じる。

人の一生は、小説よりも奇なり。日体大生にどんなドラマが待ち受けているか、だれも想像することができない。が、学生自身が、いい意味で両親を裏切って欲しいとも願う。たった一度の人生、日体大という歴史と伝統のある大学で学んだ者として、大小を問わず、美しい花を咲かせて欲しい。そのために大学は当然ながら、最大の協力を惜しまない。

## 本学の学生支援と就職について

キャリア支援部門 事務長

大山 茂



東京都保護者会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本学の教育・運営に格別のご高配を賜り有難うございます。

近年、「人生100年時代」や「働き方改革」などの言葉をよく耳にします。さらに、これから社会に出ていく学生たちは、高度情報化社会やグローバル化の進展、さらに加速する少子高齢化社会といった激動の時代を生き抜く力や挑戦する力が必要になるとも言われています。

そのような中でも、昨年度の本学の就職率は99.2%と文部科学省発表の就職率98.0%を僅かですが上回る事ができました。教員採用試験については、保健体育16名、小学校28名、養護1名、特別支援3名の合計48名が現役合格を果たしました。今年度は2018年11月1日現在、44名の合格報告を受けています。その他、公務員145名（警察59名、消防45名、防衛省15名、法務省4名、公立保育3名、その他の地方公務員19名）、企業就職889名が社会へと飛び立っていきました。※詳細は大学HP、大学案内等にてご確認をお願いします。

しかし、私たちは現状に満足せず、学生が卒業後、より社会で活躍するために、学生の「今」ではなく「将来」に焦点をあて、どう支援していくべきかを考えました。そして社会を生き抜く学生たちの応援団として、「誰かの解を与える」のではなく、「自分にとっての解に辿り着く手助け」をしていくことにいたしました。

進路選択に正解はなく、一人ひとりが自分らしい道に進むことが大切です。誰かに言われ行動しては、自分の人生を歩むことはできません。学生時代に学業や部活動、ボランティア、アルバイトなどを通して、自分自身と真剣に向き合い、徹底的に考え抜き、自ら行動してみることが、自分の人生を歩んでいく第一歩だと考えます。また、社会では「解」のないことに挑

戦することが常です。学生時代に「解」を当たり前のように与えられてしまえば、社会に出た際、苦勞するのは学生自身です。

手厚い指導やサービスが必要だという声もあるかもしれませんが、その時は学生にとって良いことかもしれません。しかし、それが本当に学生の将来のためになるのかを考えたとき、私たちの考えは「NO」です。だからこそ、本学では「解」を与えるような就職対策講座は開催しておりません。また、相談に来た際、ヒントは与えても「解」は与えていません。学生にとっては厳しいと感じることが多いかもしれませんが、在学時に自ら考え行動することを身につけることで、社会に出たとき、激動の時代を生き抜く力、挑戦する力を発揮できると考えます。そして、本学学生にはそれができる力があると信じています。保護者の皆さまには、どうか私たちの想いと考えをご理解いただき、学生の日々の成長を見守っていただきたく存じます。そして、彼らが自分自身で選択した進路を信じ、背中を押していただければ幸いです。

進路を考え始める時期に早すぎるということはありません。1、2年生の時から積極的にキャリア支援部門や教職支援センターを利用してもらいたいと考えています。キャリア支援部門や教職支援センターには、キャリアカウンセラー資格を所持する教職員、更に元学校教員・校長経験者が在籍していますので、行動してみることで、話してみることで新しい発見があるかもしれません。是非、ご子息・ご息女に『キャリア支援部門や教職支援センターに足を運ぶこと』『自分自身と向き合い行動すること』をお話いただけますと幸いです。

最後となりますが、私たちは学生の応援団として、一人ひとりにあった支援をしまいたします。今後ともご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

東京都保護者会の皆様にはその後もご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素より大学、そして同窓会に対しご支援を賜っておりますことに改めて深く感謝申し上げます。

「東京オリンピック・パラリンピック大会」もいよいよカウントダウンに入りました。私は今、1964年を思い出しています。その年、私は在學生(4年)でした。この大会に選手(体操)として出場したく、日体大生として懸命に努力していたことを昨日のように思い出します。大会中は補欠選手の一人として選手係を中心にボランティア活動をしていました。当時、学生数は4,000人を超す程度でありましたが、ほぼ全員が大会のお手伝いをしていました。このスポーツ体験がその後の私の人生を一変させたと思っています。

スポーツは今や「メディアの王様」といわれ、社会に大きな力を及ぼす存在になりました。それは、スポーツが人々の生活に欠かせない、つまり重要な文化として認知されたということではないでしょうか。「オリンピッ

ク・パラリンピック大会」は、スポーツのもつ真の意味を世界中の人に認知してもらうために実施される、いわゆる「オリ・パラ運動」の一つの手段です。今、青春真只中にあるご子息、ご息女にとって「東京オリンピック・パラリンピック大会」は、スポーツの本来の意味を知る絶好のチャンスであるといえます。その意味におきましても、スポーツを専らに学問する日本体育大学は、誰よりも先頭に立って旗を振る必要があるでしょう。

東京都保護者会会員の皆様、地元で開催されるこの世紀の大イベントを成功裏に導こうではありませんか。一人の力は小さいものかも知れませんが、2人になれば倍増します。保護者会と同窓会、そして大学が三位一体になって活動できれば、計り知れない力が発揮できるでしょう。東京都保護者会会員皆様のご理解とご協力を重ねてお願い致します。

結びに、東京都保護者会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げます。

## 東京都保護者会の皆様へ

日本体育大学東京都同窓会 会長 高田 幸一

早春の候、ますますご清栄のことと存じます。平素より東京都保護者会の皆様におかれましては、東京都同窓会にご支援ご協力を賜り心より感謝しております。今年度も、東京都保護者会と総会・講習会等を同日開催するため調整して頂き、無事、成功裏に終えることができましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、日本体育大学は5学部、約7,000名を有する大学になりました。その大学の発展とともに東京都同窓会活動の主な目的は、(1)会員相互の親睦(2)母校の発展に寄与する。その中で特に学生への支援が挙げられます。

①教職を目指す学生に対し教育実習の指導 ②教員採用試験に向けての講習の支援 ③就職活動の支援と自主研修会や勉強会の開催等があります。

特に教育実習指導や教員採用試験対策等については、従来の中学校・高等学校教員免許に加え、小学校教員免許を志望する学生へも指導・研修等を実施しています。教員採用試験の第1次対策は、東京都同窓会が主となり、第2次対策は、大学が主となっています。

また、大学は「日体教学舎」を立ち上げ4年目になり2、3年生を対象に教員、社会人としても幅広い識見を持つ日体生の教員育成に取り組んでいます。東京都同窓会としては、教員を目指す学生へ「日体魂」を伝え協力支援しています。是非、ご子息・ご息女にもこの活動情報を伝えていただきますと幸いです。

なお、今後も進路の多様化に対応すべく、情報提供の一環として一昨年からホームページを立ち上げています。学生及び同窓生、保護者会へ定期的に事業や活動の情報を提供しています。そのことにより、同窓会会員の拡大に全力を注いでいます。

さらに、今年度より東京都同窓会活動の平成史を編集し始めました。そのために、①教員名簿の整理 ②企業で活動している同窓の情報収集を行っています。

東京都同窓会は、これからも学生支援に尽力し、今までの人的財産と知的財産を活かす新たな企画・事業を行います。今後とも保護者会の皆様におかれましてはご理解ご協力をお願い致します。

## 東京都保護者会の皆様へ

日本体育大学保護者会 会長 雑賀 清吾

東京都保護者会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、平素より本会の活動に対し、深いご理解と多くのご協力を賜り誠に有難うございます。

昭和54年に設立致しました本会も47都道府県48支部を有し、各支部ならではの独自の工夫・取組みによりその活動も年々バラエティに富み活発になっています。その中でも東京都には日体大全在學生6,986名の約23%にあたる1,633名が在籍し、全国でも在學生、保護者の数も全国一番であります。東京都保護者会は役員の方々をはじめとし会員の皆様が一体となりキャンパス見学会、キャリア支援講演会をはじめとする各行事の運営、開催を積極的かつ盛大に執り行っていたり、本部保護者会会長として心から感謝申し上げますと共に大変心強く感じております。

さて、2019年を迎え本年はラグビーワールドカップ、そして2020東京オリンピック・パラリンピックといった世界的スポーツイベントが目前に迫って参りました。まさに東京都保護者会の皆様はその歴史的スポーツイベントを身近に触れることができ、一生において滅多に味わうことが無い興奮をライブで感じるこ

とができるのです。

今、日体大生は勿論、選手のみならず監督、コーチ、スタッフとしてスポーツ界の最前線で活躍する多くの日体OB・OGの皆様は来るべき世界のステージで最高の結果を残す為に最大限の努力を尽くしている事と思います。その熱い思いに敬意を表すると共に、我々保護者会も日体大ファミリーとして一体となり最大限のエールを送り続けようではありませんか。

上記にも記しましたとおり、保護者会は全国規模の大きな組織であり、大学との情報交換により日体大に集まった学生たちを十分にサポートする為の施策を進めています。また、近年では同窓会組織との連携強化を図っており、この組織力こそが日体大の強みであります。

まだ保護者会の活動に参加されたことの無い保護者の皆様におかれましては、是非とも保護者会活動に関わって頂ければと存じます。

最後になりましたが、日本体育大学東京都保護者会の益々の発展と会員の皆様のご健康と学生の皆さんの健やかな成長を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

※学生数等は投稿時のものです。

## 関東ブロック代表者会報告

東京都保護者会 副会長 小川 照美

毎年開催される関東ブロック代表者会が、今年度は9月22日(土)に埼玉県さいたま新都心で開催されました。

大学から笠井里津子副学長をお迎えし、大学の近況をお話いただき、その後質疑応答と意見交換が行われました。日体大の取り組みとして、食育の推進、他大学との提携、西日本豪雨災害ボランティア活動、アジア大会への参加等お話がありました。健志台キャンパスへ向かう青葉台駅での東急バス混雑については、直行便やシャトルバスの運行は駅ロータリーの駐車スペースの問題もあり難しいため、現在学生の時間割を工夫し緩和されるよう対応を検討しているところとの事でした。

本部保護者会からパワハラ問題についてお話がありました。親も未然に防ぐ為に子どもの様子をよく見る事が重要です。問

題が起きた場合、学友会にある検討委員会と協力し解決に向けて努力するという事が大切です。大学の危機管理としては問題が起きた場合、指示が出せるシステムになっているとの事でした。

会場を手配してくださった埼玉県の保護者会の皆様にごこの場をお借りし心より御礼申し上げます。



## 支部会長連絡協議会

東京都保護者会 会長 小林 理津子

11月4日(日)日体フェスティバルに合わせて支部会長連絡協議会が世田谷キャンパスにて開催されました。



全国47都道府県48支部会長(北海道は広域のため2支部)、本部保護者会役員・ブロック代議員が出席し、大学からは松井幸嗣副学長、笠井里津子副学長、石井隆憲学部長、平沼憲治学部長と大学職員の方が出席されました。

大学の近況報告では初めに陸上競技部駅伝ブロック監督に関す

る残念な報告があり、今後の再発防止を強くお話しされていました。

また、災害に対するボランティア活動に参加された学生、各競技で活躍する学生の成績報告がある中、10月25日に行われたプロ野球ドラフト会議で硬式野球部員2名の指名があったなど喜ばしい報告もありました。

本部保護者会からは2019年支部活動補助費に関する報告などがありました。質疑応答では各支部が抱えている問題や質問に対し大学や他支部との意見交換が行われました。

各支部の皆様から活動のお話を伺え、情報交換などとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

去る10月13日(土)、健志台キャンパスに於いてキャンパス見学会、松浪健四郎理事長の講演、キャリア支援講演が行われました。

遠い中、79名の参加があり、案内役を引き受けてくれた6名の学生の先導で見学会スタートです。百年記念館から出発し、米本記念体育館を見ながらトレーニングルームへ。多くの学生が鍛える様子は圧巻です。屋外プール前で「この時期まだ水泳部、水球部は練習していますよ」との説明に、飛び込み台を見ながら驚かされていました。サッカー場、野球場は芝を張り替えただばかりで緑が眩しいほどです。体操競技館では、あん馬、つり輪などの練習が行われ、息を呑んでの見学となりました。新しく出来た8号館の隣には9号館があり室内に救急車があります。

その他、アーチェリー場、ゴルフ場、相撲場、ラグビー場、レスリング場など様々な部活が素晴らしい施設で活動できていると実感できた見学会でした。

キャンパス見学会の最後は、日体大生が利用している食堂で、チーズ入りハンバーグ定食(デザート付)を食べる体験です。学生たちがご飯を大盛りになっている様に

ビックリしながら、参加した皆さんも美味しそうに召し上がっていました。

昼食後、東京都同窓会会長の高田幸一様のご挨拶後、講演会が始まり、松浪理事長が登場されました。「日体大の今後について」とのテーマのもと、時に笑いを交えながら、ご自身の豊かなご経験を学生に反映させたいと愛情溢れるお話に皆さん熱心に聞き入っていました。

続いて、キャリア支援部門職員の小林大和さんには、日体大生の就職についてお話をいただきました。99.2%と高い就職率ですが、早めの準備が望ましく、様々な講習等の用意がある学生支援センターに是非足を運んで欲しいとのこと。大変心強い存在です。

キャンパス見学会、理事長講演、キャリア支援講演といずれも大変有意義な時間を過ごすことができました。



## 第52回 日体フェスティバル2018

吉村 裕希子 (1年保護者)



11月2日(金)～4日(日)世田谷キャンパスにて第52回日体フェスティバル2018が行われました。今年のテーマは「元気・笑顔・無限大」キャンパスにはテーマ通り日体大生と来場者の滲刺とした笑顔が溢れていました。

スポーツイベントが目白押しの正に体育大学の学園祭。弓道部の体験教室では部員の丁寧な指導により、通常の半分の距離からではありますでしたが的に当てることができ嬉しい思い出になりました。フェンシング部の公開練習では団体戦の練習試合を目の前で観戦し、素人目にはどちらが点数を入れたか全くわからないスピード感に圧倒されました。巧みに操っている剣を持たせてもらい、想像以上に重く硬いことにも驚きました。最終日昼前に行われた体操部のサプライズ公演は笑いあり大技もあり、11月下旬に開催される体操部演技発表会への期待が大いに高まりました。11団体が日々鍛錬している成果を披露するミニ実演会。トランポリンのシンクロとい

う2人の動きを合わせる競技には会場の皆が息を呑んで見守り、体操部全部員による一糸乱れぬ前転の連続には感嘆の声が。いかにもきつそうな体勢での大迫力の応援「エッサッサ」は力強い声が会場に響きわたり圧巻でした。他の演目もどれも大変見応えがあり、毎年立ち見ができる大人気企画というのも納得しました。

お笑い芸人ライブには旬な芸人が各日3組も登場。子どもの観客も多く大盛況でした。観覧無料入場制限なしというのも嬉しかったです。職員コンサートは松任谷由実の曲を始め、思わず口ずさみたくなる曲ばかりで楽しいステージでした。一般の参加もOKの中夜祭では韓国アーティストG-MOSTへの黄色い声援あり、ダブルダッチサークルとヒップホップ同好会の学年毎のパフォーマンスでは華麗なアクロバットあり、キレキレのダンスありで会場が一体となって盛り上がりました。

2日間足を運び日体フェスティバルを満喫しました。来年も楽しみにしています！



11月24日(土)日本体育大学東京・世田谷キャンパスメインアリーナにて体操部の第50回演技発表会が行われました。部長の三宅先生からもお話がありましたが、部員の約8割が体操未経験でスタートし、ここまで仕上げて来るには並々ならぬ努力、厳しい練習があったと思います。私の息子も部員として参加していますが、大学に入学した当初は全くの体操未経験者で、大変苦労していたように思います。そのような中でも、良き指導者、先輩、仲間たちに恵まれ、部活動が続ける事ができていることに、親として本当に感謝しています。前置きが長くなりましたが、演技発表会の内容を少し紹介します。

演技発表会は多種多様な構成で、主となる体操部の演技はオープニングから大変楽しく見る事ができました。男子体操では、楽しく軽快な演技から沖縄テイストを取り入れた演技、マット運動ではテンポの良い曲によって繰り出される躍動感ある技の数々、女子体操では女性らしく、しなやかな演技で、とても素敵でした。

体操部の他にも様々なゲストが参加しており、国士舘大学男子新体操部は、大縄跳びを使った演技やイタリアで発表した集団演技など大変見応えのある内容に歓声が上がりました。Gymunityやお〜んど・ボーイズ(体操部OG、OB)の演技も素晴らしく、HOOPMAN YU-YAのフラフープの演技もコミカルな動きの中に凄技が含まれており、流石プロのパフォーマーと言えるものでした。

「弘道お兄さんと体操」や「みんなでラジオ体操」では、皆で楽しく体を動かすことができ、会場の一体感が上がったように思います。集団体操は、体操部員及び有志による演技で、小学生でもできる安全な組立体操からこれぞ日体大と思える壮大な演技まで、大変楽しませていただきました。今後、集団行動に代わる日本体育大学の代名詞となるのではないかと思います。その他にも、映像紹介があり、盛り沢山の内容です。来年の演技発表会も今から楽しみにしています。



## 第56回 体育研究発表実演会

本間 香代子 (1年保護者)

体育研究発表実演会が、12月1日(土)青森県武道館にて開催されました。

「日体魂」が観れるとワクワクしながら待ちに待った当日、羽田空港からフライトし、着陸したその地は一面雪景色の青森空港でした。一転して会場は1時間前から期待と熱気に包まれていました。

オープニングは、青森県の一輪車クラブが登場し、大勢で円を描いたり踊ったりと国際大会優勝チームだけあって構成、表現力ともに素晴らしい演技でした。

「チアリーダー」、「新体操」、「ダンス」、そして、「集団行動」に代わる「集団体操」では、音楽に合わせてリズムカルなものや、技を交えての演技があり、様々な美しさに魅了されました。

「トランポリン」の高いジャンプ、「アルティメット」のサイドジャンプ それぞれの華麗なジャンプを見て驚

きの歓声があがっていました。

伝統芸能から「和太鼓」、それに武道の「剣道」、「空手」、「少林寺拳法」では鍛練を積んだ機敏な動きに和の芸術を感じ圧倒されました。

「救急医療」の実演では、「人の命を助けたい!」という強い信念を感じました。

トリを飾るのは、日体大の伝統を受け継ぐ「エッサッサ」です。指揮者の声と太鼓の「ドン!」で始まりました。皆が一丸となって全力で真剣に取り組む姿に心を奪われ、胸いっぱいになりました。

フィナーレは、出演者全員でのパフォーマンスです。精一杯やりきった清々しい笑顔が輝いていました。

これからも、たくさんの人達にエネルギーな日体生の魅力を伝えていってください。応援しています。





1月2日午前7時、大手町の読売新聞社前では1区を走る選手たち・関係者・応援の皆さんがスタートを待ちわびる中、各大学の応援合戦が始まりました。スタート地点から2km離れた日比谷の日体大応援スペース前には人で溢れかえり熱気に包まれていました。

午前8時、箱根駅伝スタート。先頭の選手が来るのを今か今かと日体大の旗を手にとって待っていた私ですが1区の選手たちは風の如く私たちの前を駆け抜けて行きました。

昨年の9月から新体制になり選手主導の練習、大会出場まで私たちでは計り知れないくらいの大変さだったと思います。報告会ではキャプテンの涙からたくさんの思いが伝わり、私もですが会場にいた皆さんの心も熱いものを感じたことと思います。

箱根駅伝の主役はもちろん、10区間襷を繋ぎ一生懸命走る選手たち・それを支える選手・コーチ・スタッフの皆さんですが、会場で観戦して主役を支えるたくさん

の力があることを知りました。

そのひとつが応援部（応援団部・チアリーダー部・応援団プラスバンド部）の熱い、選手を鼓舞するパフォーマンス、応援合戦でした。

往路の朝、ビル風の強い寒い日比谷、5区の選手たちが到着する直前から小雪が舞い始めた芦ノ湖畔、3日復路のスタート、ゴールと、応援団部は人数が少ないことを感じさせない力強さで、チアリーダー部は笑顔で華麗に、応援団プラスバンド部は熱い音色で選手を応援し、会場を盛り上げる姿は、とても輝いていました。

第96回は10月12日（土）立川での予選会からの出場ですが、本選での皆さんの雄姿を楽しみにしています。

箱根駅伝を支えている、すべての力に感謝申し上げます。有難うございました。

高2の息子を日体大の応援団部に入団させたいと心に秘め、私の箱根駅伝の2日間は終了しました。



## ヒップホップ同好会 ~ Cypher Heads Fam ~

福島 栄治 (3年保護者)

息子は、小学校4年生から地元少年野球チームに始まり中学・高校と野球部に所属し将来は高校野球部の監督になりたいと日体大に入学したはずが「ヒップホップ」と聞き、ダンス? EXILE? 程度の父親です。

ダンスと言えば小学生の頃、運動会でのフォークダンスで、どんな事をやっているのかと思い年末恒例の発表会なる物を見に行きました。上手い? 下手? が解らず「良くあんな動き出来るな〜」との印象でした。

活動は、普段の練習は勿論、合宿や大会に出たりしているようです。年度末には親元に会計報告まで郵送で送られて来て「ちゃんとしているな〜」との印象です。

ツイッター (@CypherHeadsFam) で連絡事項も有り

ますが、イベント・大会などへの参加情報が出ていますので、お時間のある方は、子どもたちを是非応援しに行っていたら幸いです。



## トレーナー研究会

井田 祐嘉 (2年保護者)

8歳から野球一筋だった息子は、怪我が多かったということもあって、高校1年の頃から将来はアスレチックトレーナーになりたいと口にするようになり、オープンキャンパスで顧問の河野先生にお話を伺い、トレーナー研究会に入るために日体大を受験しました。

「研究会」と聞いて私自身は何やらゆる〜い印象を受けたのですが、入ってみるとトレーナー研究会は規律が厳しくしっかりとしたサークルでした。部内ではトレーナーとして



スキルアップするためのシステムができて上がっていて、一定のレベルになると1つの運動部を専属で任されるようになります。ATルームにはあら

ゆる競技の人たちがケアのために訪れますし、決まった部活を担当するようになると、その部と共に行動するため、学内に知り合いが増えたり、今まで馴染みがなく全く知らなかった競技を深く知ることができたりします。また、学内のみならず、ホノルルマラソンや大学野球日本代表選考合宿、レスリング天皇杯等々数多くの学外現場にトレーナーとして派遣されることもあり、多くの経験を積むことができます。

息子は、朝早くから夜遅くまで授業とトレーナー活動で忙しい毎日ですが、とても充実した日々を送れているようです。自分が表舞台に立つことはなくなりましたが、選手の方々が試合で存分に実力を発揮できるよう、トレーナーとして少しでもお役に立てることを願っています。

## フィンスイミングクラブ

高鞆 明子 (1年保護者)

フィンスイミングは、紀元前885年頃の古代アッシリア兵士のレリーフに、足ヒレのような物を履き水中を移動する姿が描かれたのが起源とされ、1950年代にスクーバダイビングとともに発展し、現在はワールドゲームの正式種目となった世界中で人気のスポーツです。

フィンには2種類あり、モノフィン(両足を揃えて履く1枚フィン)はイルカの尾びれのような形状で、両手を前方に組み、身体をうねらせ、抵抗を減らして泳ぎます。世界記録は50mを13秒台と、まさにイルカのような速さです。もう1種のピーフィン(片足ずつ履く2枚フィン)は機動性に優れ、水中ホッケー等のゲームにも使います。

娘は幼少時より身体を動かすことが好きで、全ての人々が運動を楽しめる社会を目指したいと日体大へ。そして水中をダイナミックに泳ぐフィンスイミングに出会い、そのスピード感に魅了されました。現在部員は約40人、初心者が多く基本からの練習です。応援宜しくお願いします。



「日体大をもっと知りたい」こんな気持ちで役員をやらせていただいてから、あっという間に4年が過ぎようとしています。役員会があるときは大学に行くことができ、グラウンドで一生懸命部活動の練習をする学生たちの姿、学校内では勉学に励む学生たちの姿に、私自身たくさんパワーをもらっていました。役員会に参加したことで、たくさんのお会いがありました。先輩の方々のご指導もあり、各行事に向けて学部・学年の隔たりなく、活動することができました。何も分からない1年生のときは先輩方に大学の様子等々を教えていただいたり、時には娘のことを相談

ののってもらったり、役員をやっていなければこのような機会がなかったと思うので、とても感謝しています。

そして、はじめて「箱根駅伝」の応援に行ったときは、日体大のOG・OB、応援団部、チアリーダー部、ブラスバンド部のみなさん、学生たちなど、日体大の応援団の多さに驚きました。みんなが一致団結し応援する姿はさすが日体大だなと感じました。娘が日体大に入学してから4年間、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。

今後の日体大、東京都保護者会の素晴らしい活躍を願っております。4年間本当に有難うございました。

## 日体大での4年間

東京都保護者会 会長 小林 理津子（4年・2年保護者）

保護者会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より保護者会活動へのご理解・ご協力を賜り、誠に有難うございます。

中学の頃から「体育の先生になりたい!」「体育教諭になるなら日体大!」と志望校を決めていた息子(体育学部4年)と、高校3年の部活引退前、柔道整復師に興味を持ち日体大に整復医療学科があることを知り志望校に決めた娘(保健医療学部2年)が日体大にお世話になっています。

思えば4年前「卒業式までにもう一度私も大学に行ってみたい」と軽い気持ちで総会・懇親会に参加させていただきました。役員の皆様の楽しい雰囲気の中行われた懇親会では、保護者会があることを初めて知り、自分に何かお手伝い出来るならと役員をさせていただくことになりました。

東京都保護者会では、総会やキャンパス見学会の準備、広報誌作成などの活動があり、月1回ほど役員会が大学で

行われます。役員会では皆さんとの情報交換などいつも楽しい時間を過ごすことができました。本年度は、全国の会長が集まる支部会長連絡協議会にも参加させていただき、情報共有し同じ大学に通う親として、意見交換など有意義な時間を過ごすことができました。

子どもたちは、小さい頃から体を動かすことが好きで、練習や試合で一緒に出掛けることも多くありました。観戦や応援することの楽しさを教えてくれ、日体大に入学し私にたくさんの方との出会いを与えてくれた息子・娘にとっても感謝しています。貴重な出会いに感謝し、子どもたちが繋いでくれたご縁をこれからも大切にしていきたいと感じております。

残りの任期も役員の皆様のお力をお借りし、楽しく充実した活動ができるよう努めさせていただきたいと思っています。日体大での4年間親子共々楽しく過ごせたこと本当に感謝しています。有難うございました。

## 編集後記

地方出身でずっとスポーツに携わってきた私にとって、日体大はあこがれの聖地でした。

そんな日体大に息子が入学したことがきっかけで、保護者会に参加させていただくこととなりました。

保護者会では、総会の準備や広報担当として、仕事とは違う出会いがあり大変有意義な日々を過ごしています。

今回担当した東京都保護者会定期会報も皆

様のご協力をいただき無事発行することができました。

ご寄稿、ご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。

来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、今後もあらゆる場面での日体生の活躍を皆様とともに応援していきたいと思っております。

広報委員 土河 高志（記）